

## 『用いられる器』(テモテへの手紙 第二 2章 20-21節) 2022.10.16.

<はじめに> 「用いられる器」とは、教会・クリスチャンの間では独特の響きを持つ言葉です。どんな時・場面で使われるでしょうか。あなたは用いられる器でしょうか。また、用いられる器になりたいですか。それは誰から見て、どのようになれば「用いられる器」なのでしょう。

### I 多種多様な器(20)

#### ①器は道具

文字通りなら皿・鉢など入れ物や道具を、派生して人物の働きや才能・器量を指します。使う側が意図・目的に合致する器を取り出して用います。時には、器の所期の意図目的とは異なる応用・流用もされます。

#### ②大きな家には(20)

大きさ・形・絵柄、材質、用途が違い、多種多様な器があります。活用頻度も異なり、使い勝手の良いものもあれば、ここぞの場面でしか使わないものもあります。いずれの器も、主人が使うために買い求め、手元に置いています。

#### ③私たちは器

エレミヤ 18章には陶器師と制作中の器に、神と私たちの関係をたとえています。聖別された器を乱用したため、災いが身に及んだ故事もあります(ダニエル 5章)。パウロは「私たちは、この宝を土の器に入れていきます」(Ⅱコリント 4:7)と証しています。

### II 自分自身をきよめる(21)

#### ①周囲にあるもの

「これらのことから」(21)は何を指しているのでしょうか。16-18節には、「俗悪な無駄話」から人々は不敬虔に陥り、自分だけでなく周囲までも巻き込んで信仰から逸脱してしまう実例が描かれています。主イエスから引き離そうと企む動きは私たちの周りに数々あります。

#### ②離れよ、避けよ

「主の御名を呼ぶ者はみな、不義を離れよ」(19)との主の声は今も響き渡っています。この手紙には「避けなさい」と何度も勧められています(16,22,23,3:5)。私たちに巧妙に忍び寄る逸脱と誤用・乱用から自分を守るためには、何に心すればよいのでしょうか。

#### ③聖別する

私たちを造られた神は、目的と個性をそれぞれに賦与されました。それぞれの器・道具には特性があり、取り扱い方が異なります。自分がやりたいようにではなく、神が望まれることに同意して自分を当てはめることです。それを別の言葉で何と表すでしょうか。

### III 神がきよくされる(21)

#### ①聖なるものとされ

器はそこに盛られる料理・品を入れる容器に過ぎません。宝はキリストです(Ⅱコリント 4:7)。神のために聖別された器を、神は聖くしてご自分の栄光のために用います。キリストのすばらしさは、その器をも輝かせます。

#### ②主人にとって役に立つもの

使い勝手の良い器・道具を主人は大切に扱い、重用します。尊いことに用いられるとは、人前に立ち、見栄えのする、かっこいい場面に活躍することでしょうか。これはあくまでも主人の視点で見るべきです。その点でも私たちはきよめられることが必要です。

#### ③良い働きに備えられたもの

神の働きは多岐に及び、その場面・状況にふさわしい器を求められます。だから多種多様な器を主は手元に置かれています。主は、自らが為そうとされる働きに間に合う器を今も備えようとされています。

<おわりに> 尊いことに用いられる器は、役職や経歴、結果で判別できるとは限りません。その人を通して、測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものではないことが明らかになる聖い器を、主は求めておられます。(H.M.)